

## 環境と共生した社会づくり

私たちは、自らの環境負荷の抑制に努めるとともに、ICTの提供を通じて、地球規模での環境問題の解決に努め、環境と共生した社会づくりに貢献します。

特集

### 温室効果ガス削減に向け 再生可能エネルギーを導入



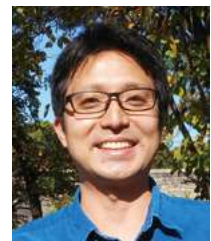
NTT西日本グループは、2030年度までに電力30%のグリーン化を宣言しているNTTグループ環境エネルギービジョン、および2050年度までの温室効果ガス(GHG<sup>\*</sup>)排出半減(2010年度比)を掲げるNTT西日本グループ環境目標の達成に向け、地球温暖化の抑制に寄与するために、2020年5月から中国・九州エリアの6ビルの電力を再生可能エネルギーに切り替えました。導入した電力には、NTTのグループ会社として積極的な再生可能エネルギーの調達と供給を行う総合エネルギーサービス企業である株式会社エネットが提供する排出量低減メニュー「EnneGreen(エネグリーン)」等を採用し、実質的に再生可能エネルギーの100%利用を実現しています。今般の6ビルにおける電力切り替えにより、年間で3千t-CO<sub>2</sub>以上ものCO<sub>2</sub>排出を削減することができます。

他にも各支店で太陽光パネルの設置、車両のEV化、イベントでのカーボンオフセット等に取り組んでおり、今後も環境にやさしいICTソリューションのさらなる推進に努めていきます。

※ Greenhouse Gasの略

#### VOICE 担当者の声

持続可能な社会の実現に  
貢献する企業として環境経営を  
積極的に進めていきます。



デジタル改革推進本部  
技術革新部  
環境経営推進室

井上 洋思

重要課題であるGHG削減については、自社ビルへの再生可能エネルギーの供給を開始し、2020年度はNTT西日本本社ビルを含む16ビルの切替えを完了し、2030年目標達成(30%以上)に向け、順次切替を進めていきます。今後は、個人レベルでできるSDGsの取組みから、会社として取り組むべき環境施策まで、幅広い視点で考え、社会に貢献していきたいと思っております。

特集

### 通信設備に関わるプラスチック等の削減を推進し 「環境と共生した社会づくり」に貢献



深刻な地球環境問題の一つである海洋プラスチックへの対策として、NTT西日本グループは通信設備に関わるビニール袋削減等の取組みを進めています。

具体的には、お客さまのご自宅等に設置する通信設備(ONU<sup>\*1</sup>やホームゲートウェイ<sup>\*2</sup>等)の一部に、検査・クリーニング済の「リユース品」を活用し、さらに機器の本体・添付品等を梱包するビニール袋の削減を進めています。また、ビニール袋で包装のうえ、同梱している壁面固定ネジは、大半は未使用で返却されることから、ネジそのものの削減も行っています。

これらの実現のため、保管時の耐防塵性や輸送時の耐衝撃性を維持・確保可能な個装箱に見直しました。また、個装箱を縮小化したことで、紙使用量の削減、輸送・保管コ

ストの低減にも貢献しています。

今後も、対象物品の拡大等、環境負荷抑制に向けた取組みの検討を進めていきます。

- ※1 光ファイバーを利用したネットワークにパソコン等の端末機器を接続するための回線終端装置
- ※2 お客さまの宅内に設置し、ネットワーク上で規格の異なるデータを相互に変換して通信を可能にするための機器



## NTT西日本グループ環境宣言

NTT西日本グループは、「NTT西日本グループ環境宣言」をまとめました。この宣言の核となるのは、「人と地球が調和する未来 私たちは事業を通じて 環境課題の解決へ」というテーマです。ステークホルダーの皆さまとともに創っていく地球環境の未来像と、私たちが地球環境をはじめとする中長期的課題の解決に向け、事業活動を通じて貢献していく決意を描きました。

人と地球が調和する未来について、私たちはめざすべき三つの姿を描きました。それが「社会が脱炭素化している未来へ」「自然と共生している未来へ」「資源が循環している未来へ」です。NTT西日本グループは、この3つの未来の姿の実現に向け、ICTサービスやソリューションの提供等により、環境貢献の最先端をめざしてさまざまな取組みに注力します。

### ■NTT西日本グループ環境宣言



## NTT西日本グループ環境目標

NTT西日本グループは、環境宣言で掲げた「社会が脱炭素化している未来へ」「自然と共生している未来へ」「資源が循環している未来へ」の実現に向けた道しるべとして、3つの環境課題への対応を「環境目標」として設定しました。

これらの目標は、少なくとも5年ごとに見直しを行います。

### 社会が脱炭素化している未来へ

- NTT西日本グループ自身による温室効果ガス排出を2010年度と比較し、2050年に半減をめざします。また、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出削減に向けた取組みを推進します。
  - ICTにより地球環境の負荷低減に貢献するために、環境にやさしいICTソリューションの開発と提供を推進します。
  - 気候変動への適応に貢献するため、あらゆる活動を通じた取組みを積極的に推進します。
- また、ステークホルダーの皆さまとも協働していきます。

### 資源が循環している未来へ

- NTT西日本グループが排出する廃棄物の最終処分率について、ゼロエミッション<sup>\*</sup>を維持します。

### 自然と共生している未来へ

- 生物多様性を保全するため、あらゆる活動を通じた取組みを積極的に推進します。
- また、ステークホルダーの皆さまとも協働していきます。

<sup>\*</sup> NTTグループでは、最終処分率1%以下をゼロエミッションとして定義しています

## 環境経営の推進

### 基本的な考え方

NTT西日本グループは、社会全体の環境負荷低減に貢献する企業をめざし、ICTを利活用した環境負荷低減や環境問題の解決に取組み、地球規模での環境問題の解決に努めます。

### 環境マネジメント推進体制



NTT西日本グループでは、「環境保護活動を推進することは社会とともにある企業の社会的責任である」という考

えのもと、「NTT西日本グループ地球環境憲章」を制定し、地球環境の保全に努めています。この憲章に従い、さまざまな環境貢献指標の管理方法をISO14001を参考に「実行管理プログラム」として編成し、数値による実行度の管理を行っています。また、各組織における環境法規制の遵守状態、実行管理プログラムの実施状況等、環境保全対象の定着度を各組織が自ら検証することを目的として、環境セルフチェックを年1回実施しています。なお、この環境セルフチェックを客観的な見地から実施するため、主管部による環境監査を実施しています。

### NTT西日本グループ地球環境憲章

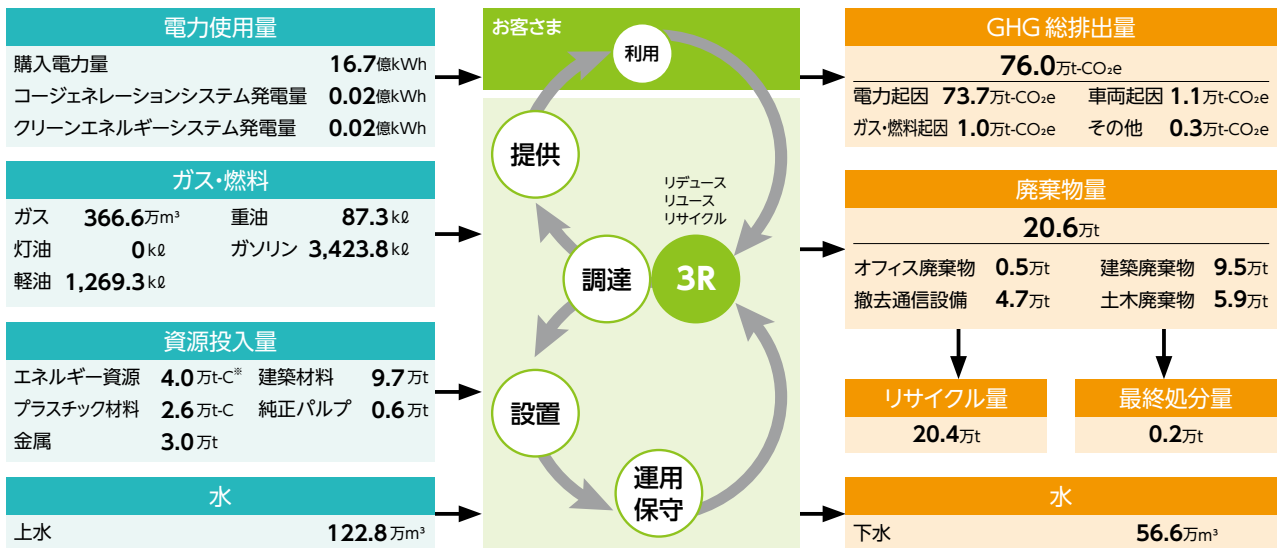
[https://www.ntt-west.co.jp/kankyo/annual\\_report/2016/about/4-1.html](https://www.ntt-west.co.jp/kankyo/annual_report/2016/about/4-1.html)

## マテリアルフロー



西日本全域で事業を展開するNTT西日本グループは、事業規模も大きく、それだけに相当の環境負荷を与えています。そのうえで、マテリアルフローを定期的かつ定量的に把握し振り返ることで、継続的な環境負荷の低減に役立てています。

### ■マテリアルフロー



### CSR重点活動項目

## 脱炭素社会の推進

### サプライチェーンのGHG排出量

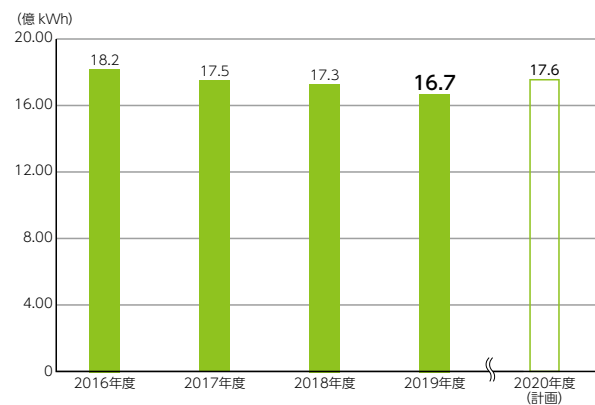


NTT西日本グループは年間約17億kWhもの電力を使用し、それに伴い大量のGHGを排出しています。電力を大量に使用する企業の責務として、継続的に電力使用の効率化に取り組んでいます。徹底的な省エネルギーによって増大し続ける通信設備の電力使用量の増加抑制に努めるとともに、自社サービスを通じて社会のGHG排出量削減に貢献し続けます。

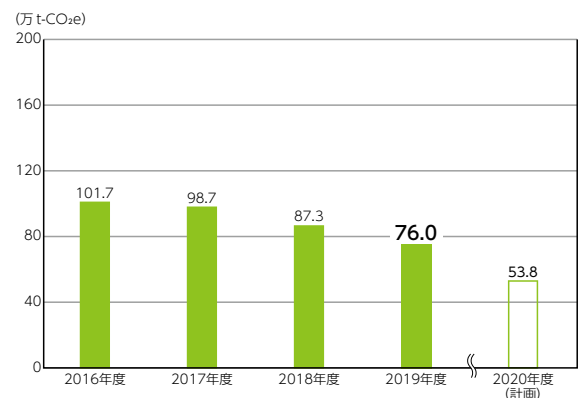
また、自社の排出するGHGに加えて、事業活動に間接的に関連する他社も含めて、サプライチェーン全体のGHG排出量を管理しています。

NTTグループでは、国際的なGHG排出削減目標であるSBT (Science Based Targets) に対し、2030年のGHGによる気温上昇を2度より十分に低く抑える目標を設定しています。そのため、NTT西日本グループでも、目標達成に向けてGHG排出の少ない設備や、装置を調達することで、サプライチェーン全体のGHG排出量の削減を実施していきます。

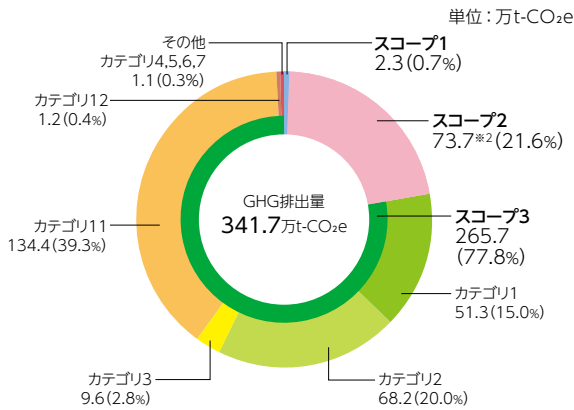
### ■電力使用量の推移



### ■GHG総排出量の推移



■ サプライチェーンを通じたGHG排出量(スコープ1,2,3\*)



■ スコープ3の算出方法

カテゴリ	算出方法
カテゴリ1	購入した製品・サービス お客さまに販売している機器、サービスを対象に、数量・購入金額から算定
カテゴリ2	資本財 通信設備等の設備を対象に、設備投資費用から算定
カテゴリ3	スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動 エネルギー種別ごとの年間消費量から算定
カテゴリ4	輸送、配送(上流) 調達した製品の重量と輸送距離から算定
カテゴリ5	事業から出る廃棄物 廃棄物の重量から算定
カテゴリ6	出張 従業員の出張費から算定
カテゴリ7	雇用者の通勤 従業員の交通費から算定
カテゴリ11	販売した製品の使用 お客さまに利用いただいている通信サービスや機器を対象に、サービス契約数、機器の数量・金額から算定
カテゴリ12	販売した製品の廃棄 お客さまに利用いただいている通信機器を対象に、サービス契約数、機器の数量・金額から算定

※1 スコープ：GHGプロトコルという世界的に認められたGHG排出量算定のガイドラインの中に定義されている排出範囲の呼び方 スコープ1：事業者が所有または管理するものから直接排出されるGHGのこと スコープ2：他社から供給された電気、蒸気、熱等の使用に伴い発生するGHGのこと スコープ3：スコープ1,2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)  
※2 NTT西日本が所有するビルで購入した電力量から算出

ソリューション環境ラベル



NTTグループでは、ICTサービスの導入による地球環境保護への貢献をお客さまにわかりやすく伝えるため、「ソリューション環境ラベル」制度を策定しています。本制度は、グループ各社が提供するさまざまなICTソリューションの中で、CO<sub>2</sub>排出量の削減率が15%を超えるものを、環境にやさしいソリューションとして認定し、「ソリューション環境ラベル」を付与するというものです。



NTT西日本グループでは、2019年度末時点で延べ10件に「ソリューション環境ラベル」を付与しています。

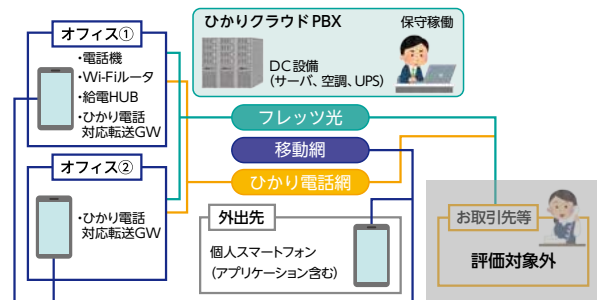
昨今、SDGs、ESG (Environment：環境、Social：社会、

Governance：企業統治) 投資、さらには災害対策、プラスチック問題をはじめとした環境に対する取組みの重要性がますます高まりつつあります。NTTグループは、日本全体の1%という電力を使用していますが、それ以外の99%の部分で、ICTを活用し、社会に貢献できる施策のひとつとして、「ソリューション環境ラベル」の推進に取り組んでいきます。

ひかりクラウドPBX

ひかりクラウドPBXは、内線通話機能とPBX機能をクラウド上のサーバから提供するというものです。専用アプリケーションを利用することで、スマートフォンを使って外出先でも代表番号が受けられるようになり、さらに内線通話もできるようになります。社員のスマートフォンのBYOD利用による業務効率化はもちろん、昨今増えつつあるテレワーク・在宅勤務にも活用可能です。また、PBXをクラウド化することで、交換機を置いていたオフィスのスペースの有効活用ができ、保守管理費も軽減、さらに災害時に事業を継続していくためのBCP対策にもなります。ICT機器の設置数や運用数を削減することで、環境保護に貢献する効果があるサービスです。ひかりクラウドPBXの導入により、従来手段と比較して1年間あたり42%のCO<sub>2</sub>排出量が削減されるという結果が出ています。

■ サービスの評価モデル

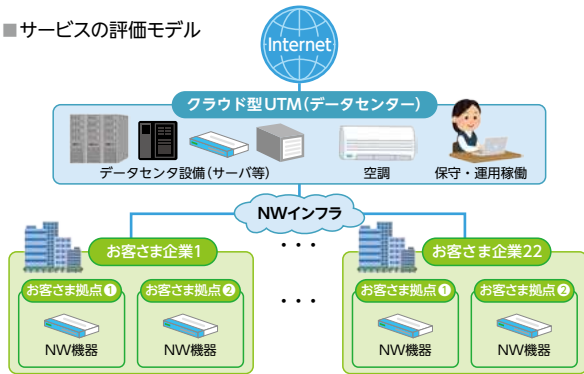


クラウド型UTM

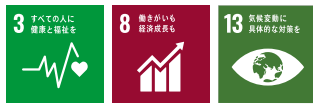
クラウド型UTMは、お客さまの複数オフィス・拠点のネットワークをデータセンターに集約し、安価なセキュリティ対策と効率的な運用を実現します。複数拠点にUTM機器を設置し、それぞれがインターネットに接続していたものを、クラウド型UTMに集約することができるため、オンプレミス同様のセキュリティ設定をクラウドで実現することができます。また、拠点ごとだったセキュリティ設定や管理をクラウド型UTMに一元化するため、効率的な保守運用が可能です。大幅にICT機器の設置数を削減することができ、CO<sub>2</sub>の削減にも寄与するサービスです。クラウド型UTMの導入により、従来手段と比較して1年間あたり42%のCO<sub>2</sub>排出量が削減されるという結果が出ています。



■サービスの評価モデル



物流業界の変革に向け「ホワイト物流」に賛同



NTT西日本は、国土交通省が提唱する「ホワイト物流」推進運動に賛同し、荷主企業としての責任を果たすべく、グループ各社の資材調達部と連携して自主行動宣言を定めました。本運動は、深刻なトラック運転手の人手不足に対し、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化、女性や60代の運転手等がより働きやすい(=ホワイトな)労働環境を実現するための運動です。この活動を推進していくことにより、物流の安定確保や業務プロセス見直しによる生産性向上に加え、配送効率化(配送ルート化による車両削減・渋滞回避配送等)によるCO<sub>2</sub>排出削減が見込まれ、地球環境保全につながります。本運動を通じて、企業の社会的責任を遂行するとともに、SDGsの達成に貢献していきます。

CSR重点活動項目

資源循環型社会の推進

廃棄物最終処分率・環境負荷の低減



NTT西日本グループでは、環境経営の推進に際し、廃棄物の最終処分率目標を1%以下に設定し、リサイクル率を高めゼロエミッションを達成する活動を推進しています。

2019年度の最終処分率は、リサイクルが困難な廃棄物の割合が増加した等の影響で、結果として2018年度比で0.59%増加して1.22%となりました。2020年度は、グループ連携を進めるとともにリサイクル率向上施策の検討・導入等により、廃棄物の最終処分率の低減に努めます。

また、紙資源については、ペーパーレス会議の徹底や業務のシステム化によって紙使用量の削減に努めている他、年間使用計画を設定し、達成状況を管理しています。

CSR重点活動項目

生物多様性の保全

「みどりいっぱいプロジェクト」の推進



「みどりいっぱいプロジェクト」は地域の自然的・社会的条件に応じた生物多様性の保全のため、自治体・NPO等と連携しながら展開する生物多様性保全活動です。西日本エリア全30府県のグループ社員・その家族・退職者等1万人を目標に植樹等の活動を行っています。

地球環境保護活動 みどりいっぱい活動報告  
<https://www.ntt-west.co.jp/kankyo/create/>

大阪市主催のビオトープ活動に参加

NTT西日本 大阪支店とNTTビジネスアソシエ西日本 関西支店 大阪事業部は、大阪府が主催する生物多様性の保全・生態系の学習を目的とした鶴見緑地公園自然観察園の「湿地化プロジェクト ビオトープ造り」に参加しています。ビオトープとは自然が自ら再生し多様な生き物が共生できる生息域を整備する活動で、2019年10月の大阪支店有志社員による地質調査を兼ねた試掘に続き、11月から新型コロナウイルス禍で中断するまで5回にわたり、NTT西日本グループ社員・家族が大阪府の職員、市民ボランティアとともにビオトープの穴掘り・側面防水作業等を実施しました。

「とっとり共生の森」活動を実施

2019年12月、NTT西日本 鳥取グループは、「とっとり共生の森(森林保全)」活動を実施しました。この活動は、鳥取県および鳥取市と森林保全・管理協定に基づき、鳥取砂丘オアシス広場に植栽した約200本の抵抗性クロマツの保育管理を行う取り組みです。害虫被害の著しい海岸松林の再生、付近のらっきょう(県特産品)畑の飛砂からの保護を視野に、年2回の頻度でクロマツ周辺の下草刈り等の保育活動を実施しており、3回目となった今回は、NTT西日本 鳥取グループの社員・家族・OBの67名が、鳥取県・鳥取市・県東部森林組合の皆さまとともに雑草除去に汗を流しました。